

所 属	文化振興担当
所属長	松長 昌男
電 話	06-6489-6385

**A-Lab Exhibition Vol.32「あまがさきアート・ストロール in A-Lab」を開催します
Enjoy!をテーマに10組のアーティストが作品を展開**

1 趣旨

尼崎で初めて開催する芸術祭「あまがさきアート・ストロール」。この芸術祭の特別会場としてA-Labでは「Enjoy!」をテーマにグループ展を開催します。「Enjoy!」には、まちの日常の中で大切な「楽しみ」を感じてもらえたり、とかく難解などと言われることがある現代アートを「楽しみ」の面からふれてもらえたらとの思いを込めています。そんな中今回は、様々なジャンルで表現している10組のアーティストが参加しています。A-Labのコンセプトである若手作家、尼崎ゆかりの作家、“まち”をテーマに作品を展開している作家。ぜひ、それぞれの「Enjoy!」を体験してみてください。

また、新型コロナウイルス感染症の感染を防ぐため、別紙1のとおり対策を行います。

2 概要

会 期：令和4年3月5日(土)～令和4年4月10日(日)

会 場：あまらぶアートラボ「A-Lab」(尼崎市西長洲町2-33-1)

入場料：無料

時 間：(平日) 午前11時～午後7時

(土・日・祝) 午前10時～午後6時

※休館日：火曜日(3月22日(火)は臨時開館)

出展者：尼子騷兵衛、伊藤瑞希、今和泉隆行+空想調査員、上坂直、久保沙絵子、
久保木要、小林哲朗、Studio Spass、原倫太郎、安田知司

問合せ：尼崎市文化振興担当(土日除く午前8時45分～午後5時30分)

電話 06-6489-6385 FAX 06-6489-6702

主 催：尼崎市

協 力：ベイ・コミュニケーションズ、Art&Nepal、有限会社木村木型

助 成：令和3年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業



3 関連イベント

トークイベント「まちの芸術祭の関係」

A-Lab アドバイザーの原久子さん(大阪電気通信大学教授)と吉川直哉さん(大阪芸術大学教授)と、ゲストに宝塚市立文化芸術センター館長の加藤義夫さんを迎え、トークイベントを開催します。

日時：3月20日(日) 午後3時～午後5時

定員：先着15名

申込方法：メールでA-Labへ「イベント名(芸術祭トーク)、氏名、年齢、電話番号、人数」を明記ください。(宛先 amalove.a.lab@gmail.com)

4 作家略歴

別紙2参照

以 上

あまらぶアートラボ (A-Lab) における新型コロナウイルス感染症拡大防止策

【来場者へのお願い】

来場者へのお願いとして以下の内容を掲示します。

- ・咳エチケット、マスク着用、手洗い・手指の消毒をお願いします。
- ・咳・咽頭痛などの症状や 37.5 度以上の熱がある方、帰国後 2 週間以内の方の入場はご遠慮ください。
- ・エレベーターの使用は移動に制約のある方のみ使用していただくようお願いいたします。
- ・場内では間隔を広げてご鑑賞ください。
- ・鑑賞中に大きな声での会話はご遠慮ください。
- ・基本的に作品にはお手を触れないでください。直接手で触れることができる展示物は設置している手袋の着用をお願いします。
- ・資料、図書を閲覧する際は手袋の着用をお願いします。
- ・ご来場の際に、ご連絡先などをお伺いさせていただきます。
- ・検温機による体温の確認のご協力をお願いいたします。また、一定値以上の発熱がある場合は入場をお断りする場合があります。
- ・スタッフはマスクを着用して対応させていただきます。
- ・基本的に荷物のお預かりができません。大きなお荷物はスタッフにご相談ください。

【接触・飛沫感染防止対策】

(入口)

- 1 入口に消毒液を設置します。

(受付)

- 2 受付で兵庫県新型コロナウイルス追跡システムに登録できるようにする他、来場者の連絡先を記載してもらう用紙を設置し、感染が確認された際に連絡を取れるようにします。
- 3 場内では間隔を広げてご覧いただくようお声掛けするとともに、フロアマーカを設置します。
- 4 受付に飛沫感染防止のためシールドを設置します。
- 5 検温機を設置して来場者の体温を確認します。

(ロビー等)

- 6 連絡先の記載やアンケート記入に使用した鉛筆はお持ち帰りいただきます。
- 7 ポートフォリオ、図書コーナーの本の閲覧時に使用する使い捨ての手袋を設置します。

(展示室)

- 8 直接手で触れることができる展示物を鑑賞するための使い捨ての手袋を設置します。
- 9 展示室内は常時換気していますが、可能な限り展示室のドアや窓を開けて換気をします。展示上、ドア、窓を開ける事ができない部屋は 30 分に一回程度、展示室の換気を行います。

(その他)

- 10 手すり、ドアノブ、エレベーターのボタン、テーブルなどを適宜殺菌消毒します。
- 11 トイレの洗面に使い捨てペーパーを設置します。

【スタッフの健康管理】

- 1 毎日スタッフの検温を行います。
- 2 スタッフはマスクを着用し、手洗い・手指の消毒を徹底して実施します。
- 3 来場者への資料の配布、荷物の対応等の場合、手袋を着用します。



会期	2022年3月5日(土)~4月10日(日)
開館時間	(平日) 午前11時~午後7時 (土・日・祝日) 午前10時~午後6時
会場	あまらぶアトラボ「A-Lab (えーらぼ)」 尼崎市西長洲町 2-33-1
休館日	火曜日 (3月22日は臨時開館)
入場料	無料
主催	尼崎市
協力	Baycom Art & Nepal 有限会社木村木型
助成	令和3年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業



開催要旨

尼崎で初めて開催する芸術祭「あまがさきアート・ストロール」。この芸術祭の特別会場として A-Lab では「Enjoy!」をテーマにグループ展を開催します。「Enjoy!」には、まちの日常の中で大切な「楽しみ」を感じてもらえたり、とかく難解などと言われることがある現代アートを「楽しみ」の面からふれてもらえたらとの思いを込めています。そんな中今回は、様々なジャンルで表現している 10 組のアーティストが参加しています。A-Lab のコンセプトである若手作家、尼崎ゆかりの作家、“まち”をテーマに作品を展開している作家。ぜひ、それぞれの「Enjoy!」を体験してみてください！

関連イベント

トークイベント「まちと芸術祭の関係」

3月20日(日)午後3時～5時、原久子さん(大阪電気通信大学教授)と吉川直哉さん(大阪芸術大学教授)のともに A-Lab アドバイザーのお二人とゲストに宝塚市立文化芸術センター館長の加藤義夫さんを迎え、「まちと芸術祭の関係」をテーマにトークイベントを開催します。定員先着 15 人。

【会期中の関連イベントに参加申込する場合】

※関連イベントはすべて参加費無料です。

申込みはメールで A-Lab へ。イベント当日は直接会場(A-Lab)へお越しください。メールでお申し込みの場合は、下記メールアドレスまでイベント名(芸術祭トーク)・氏名・年齢・電話番号・人数を明記ください。

あまらぶアートラボ (A-Lab) メールアドレス

amalove.a.lab@gmail.com

展覧会、関連イベントの詳細はあまらぶアートラボ (A-Lab) ホームページ (<http://www.ama-a-lab.com>) をご覧ください。

広報用画像

このプレスリリースに掲載されている画像データ(※9～12ページ参照)をプレス掲載用にご用意しております。下記の使用条件をご了承の上、あまらぶアートラボ「A-Lab」までお申し込みください。

使用条件：

- ・ 広報画像の掲載には各画像のキャプション、クレジットをご表示ください。
 - ・ トリミングや画像加工などはご遠慮ください。
 - ・ アーカイブのため、後日掲載紙、URL などをお送りください。
- 以上、ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

問い合わせ先

尼崎市文化振興担当（平日のみ） 担当：松長、藤平、金子松

電話 06-6489-6385 / FAX 06-6489-6702

あまらぶアートラボ「A-Lab」（火曜日休館） 担当：八木、大西

電話 / FAX 06-7163-7108 メール amalove.a.lab@gmail.com

作家略歴

■ 尼子 騷兵衛 (あまこ そうべえ)

兵庫県尼崎市出身。
 佛教大学 文学部 史学科卒業。



1986年から2019年の33年間にわたり、朝日小学生新聞で漫画「落第忍者乱太郎」を連載。アニメ「忍たま乱太郎」は同漫画を原作とし、NHK最長寿アニメとして1993年から現在まで放送され、子どもから大人まで幅広い層に愛されている。現在は、朝日小学生新聞で古典文学のおもしろさを伝える「乱太郎とめぐるふしぎな世界」を連載中。

【受賞歴】

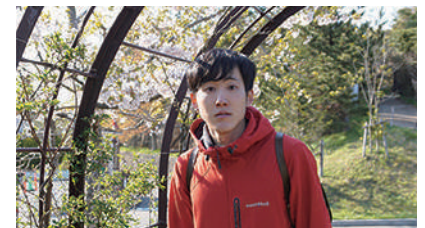
- 2018 尼崎市民芸術賞
- 2001 兵庫県芸術奨励賞
- 1995 尼崎市民芸術奨励賞

【主な展覧会】

- 2021 尼子騷兵衛展、尼崎市総合文化センター、尼崎
- 2021~ 尼子騷兵衛オリジナルピクチャーコレクション(常設展示)、あまがさき観光案内所、尼崎
- 2017 落第忍者乱太郎原画&忍者道具展示、真田十勇士ガーデンプレイス、長野

■ 伊藤 瑞希 (いとう みずき)

1991年 奈良県出身。



京都在住のアニメーション作家。
 学生時代からデジタルアニメーションを独学し、卒業後も個人制作を続けるが一向に形にならない。
 ようやく完成した初監督作『高野交差点』では、恩師である中田秀人氏(SOVAT THEATER)の脚本をもとに、キャラクターデザイン・絵コンテ・作画・音響・編集も担当した。

【受賞歴】

- 2021 京都国際マンガ・アニメ大賞 2021 大賞
- 2021 23rd DigiCon6 ASIA JAPAN Silver
- 2021 23rd DigiCon6 ASIA ASIA Jury Award

作家略歴

■今和泉 隆行（いまいずみ たかゆき）
 +空想調査員（くうそうちょうさいん）
 （キシリ徹、佐藤香織、タナゴ、寺井暁子、
 TOK.S、ばつまる、ホンダノホンダナ、
 Mr. Densha、渡邊絵理、綿谷エリナ）



今和泉 隆行

1985年 東京都日野市出身。
 埼玉大学経済学部卒業。

【主な展覧会】

- 2021 フロム・ジ・エッジ —80年代鹿児島生まれの作家たち、鹿児島市立美術館、鹿児島
- 2021 アジア都市透視展、Shibuya-san、東京
- 2020 空想調査員が見た、空想都市、Art for thought、東京
- 2019 ひろがる地図、東京都現代美術館、東京
- 2018 めがねと旅する美術展、青森県立美術館・島根県立石見美術館・静岡県立美術館、青森・島根・静岡
- 2017 MESSAGE2017 南九州の現代作家たち、都城市立美術館、宮崎
- 2015 中村市をめぐる 万物収集報告展、HAGISO、東京
- 2015 「○○○も○○○も○○○も」展、東京ミッドタウン・デザインハブ、東京

■上坂 直（うえさか なお）

1991年 富山県出身。
 武蔵野美術大学 大学院造形研究科
 デザイン専攻建築コース修了。



縮尺を操りながら制作することを通して、東京をはじめとする現代における都市のあり方への疑問や違和感と向き合う。

【受賞歴】

- 2020 六甲ミーツ・アート芸術散歩 2020 公募大賞グランプリ受賞
- 2019 アートハウスおやべ 第2回現代造形展 特別賞・北日本新聞社賞受賞
- 2018 第8回新鋭作家展 優秀者選出

【主な展覧会】

- 2020 六甲ミーツ・アート芸術散歩 2020、六甲枝垂れ、兵庫
- 2020 ディスタンス 間隔と感覚、あまらぶアートラボ「A-Lab」、尼崎
- 2020 アートハウスおやべ 第2回現代造形展、アートハウスおやべ、富山
- 2019 第8回新鋭作家展「あ、これ、ウチのことです。」、川口市立アートギャラリー・アトリア、埼玉

作家略歴

■久保 沙絵子（くぼ さえこ）

1994年 兵庫県出身。

和歌山大学卒業。

大阪を拠点に、下書きをしない事、フリーハンドで描く事をモットーに線画を制作しています。

新型コロナウイルスが蔓延する以前は、実際にその風景の中で描くことを基本に活動していましたが、現在は、社会の状況を鑑みながら、現地での制作や、風景写真を見ながらの制作を行っています。

【主な展覧会】

（個展）

2021 ところてん、心齋橋ギャラリービル、大阪

2021 久保沙絵子個展、STUDIO_93、兵庫

（アートフェア）

2021 Unknownasia2021、グランフロント大阪、大阪



■久保木 要（くぼき かなめ）

1990年 京都府出身。

京都精華大学 大学院 芸術研究科修士課程

陶芸領域修了。

未知の文明をテーマに、複数のパーツを組み上げることで一体になる、出土品をモチーフとした陶作品を制作しています。近年では、切り抜いたアクリル板を貼り合わせた彫刻作品の制作を行っています。

【主な展覧会】

2021 CURTAIN CALL#2、新宿眼科画廊、東京

2020 ウィスパー〈ガラガラ〉、KUNST ARZT、京都

2019 BONUS TRACK、KUNST ARZT、京都



作家略歴

■小林 哲朗（こばやし てつろう）

1978年 兵庫県尼崎市出身。
関西保育福祉専門学校卒業。

工場風景を中心に巨大建造物、地下空間、廃墟など身近に潜む異世界をテーマに写真を撮影している。写真展、写真集、SNSを通じて作品を発表している。また、講演会、写真教室やバスツアーを通じて工場風景の魅力を広める活動をしている。



【主な展覧会】

2021 瀬戸内海の工場がすごいから見てほしい、尼崎城4F ギャラリー、尼崎
2016 魅せる工場展、あまらぶアトラボ「A-Lab」、尼崎
2013 阪神沿線工場写真展、阪神電鉄レンガ倉庫、尼崎

■StudioSpass（スタジオスパス）

2008年 結成。
オランダ・ロッテルダムでのデザインスタジオ。プリントメディア、ブランディング、ウェブ、そして空間デザインに至るまで幅広い領域で活動している。
Jaron Korvinus（ヤーロン・コルヴィナス）と Daan Mens（ダーン・メンス）によって設立。精緻なアプローチに遊び心あふれる感覚を組み合わせたデザインが特徴。



【受賞歴】

2016 Bronze European Design Award (ED-awards) Something at Kunsthal
2013 Bronze European Design Award (ED-awards) Silent Snow
2012 Silver European Design Award (ED-awards) Wereld van Witte de With

【主な展覧会】

2021 ニューアイデンティティ、あまらぶアトラボ「A-Lab」、尼崎
2021 Typoianchi 2021、International Typography Biennale Seoul、韓国
2020 アイデンティティのキキ、あまらぶアトラボ「A-Lab」、尼崎
2016 Flag Studio、Flag Studio、大阪

作家略歴

■原 倫太郎（はら りんたろう）

1973年 神奈川県出身。
サンドベルグインスティテュート卒業。

動力を伴った大型インスタレーションを制作している。また画家の原游とのユニットで、テーマパーク型インスタレーションや自動翻訳を駆使した絵本やアニメーションを発表している。

【受賞歴】

2008 第11回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門奨励賞

【主な展覧会】

2021 ART SEEDS HIRADO 2021、オランダ商館、長崎
2021 北アルプス国際芸術祭 2020-2021、旧大町北高等学校、長野
2019 瀬戸内国際芸術祭 2019、女木島、香川



■安田 知司（やすだ ともし）

1985年 北海道出身。
京都嵯峨芸術大学（現・嵯峨美術大学）
芸術学部造形学科油絵分野卒業。

大学を卒業後、京都の共同スタジオで10年間所属。2019年より大阪に拠点を移す。

主に平面作品を中心に制作。近年ではデジタル画像を構成するピクセルを触覚感覚として認知できる大きさまで拡大し、それをキャンバスに移し替えることで、視覚する世界の曖昧さを表現している。

【受賞歴】

2021 紀陽銀行 presents UNKNOWN ASIA 2021 グランプリ
2018 シェル美術賞 入選

【主な展覧会】

（個展）

2021 「Landscape before being named」、GALLERY wks.、大阪（アートフェア）
2020 ART in OFFICE “SESSEN”、FM802・FM COCOLO 本社、大阪（グループ展）
2020 FOCUS -FOUR PAINTERS-、TEZUKAYAMA GALLERY、大阪



参考図版



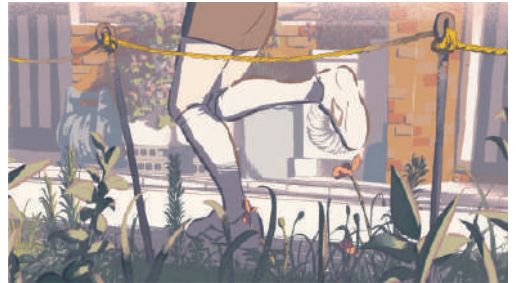
1



2



3



4



5



6



7



8

参考図版



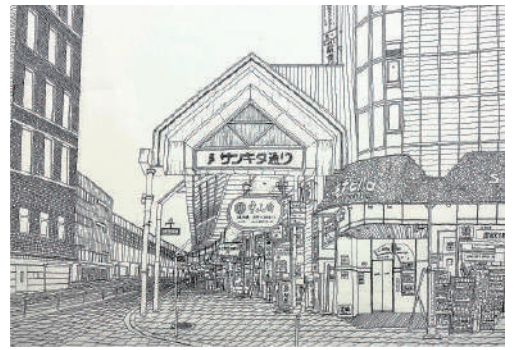
9



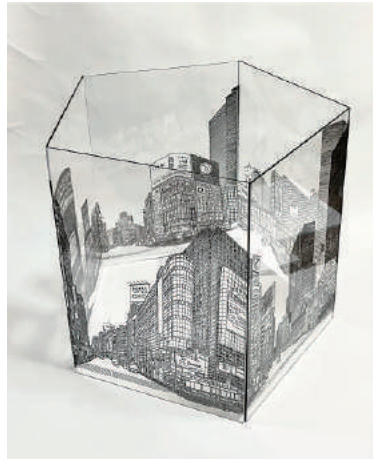
10



11



12



13



14



15



16

参考図版



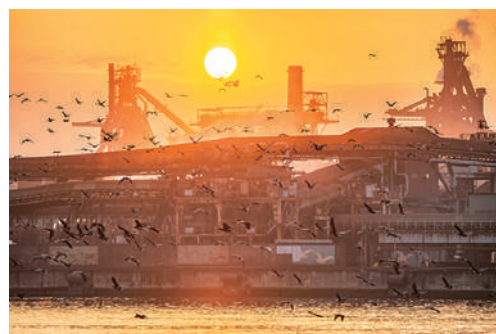
17



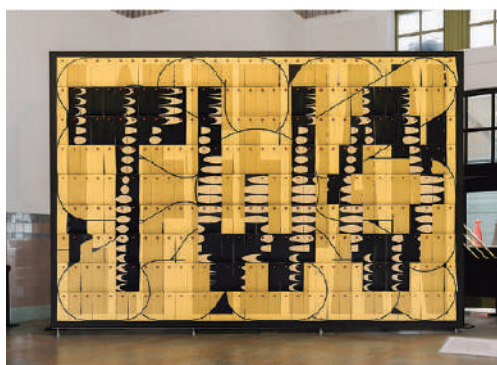
18



19



20



21



22



23

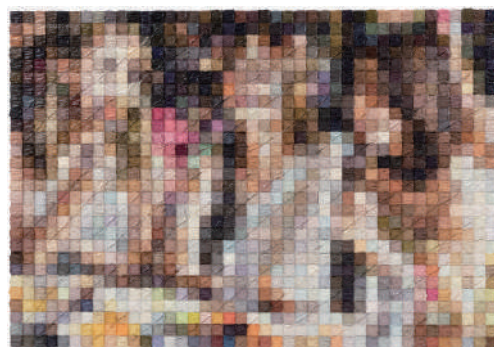


24

参考図版



25



26



27



28

1. 尼子騒兵衛 | 『体抜き小平太』 | 2021
2. 伊藤 瑞希 | 『高野交差点』 | 2021 ©2021 Mizuki Ito
3. 伊藤 瑞希 | 『高野交差点』 | 2021 ©2021 Mizuki Ito
4. 伊藤 瑞希 | 『高野交差点』 | 2021 ©2021 Mizuki Ito
5. 今和泉隆行+空想調査員 | 『中村市大判地図』 | 2010-2021 (更新中)
6. 今和泉隆行+空想調査員 | 『中村市内の落とし物 (村上彩乃)』 | 2017
7. 今和泉隆行+空想調査員 | 『中村市民のポスト (石崎智美)』 | 2020
8. 上坂 直 | 『個人的聖域群：川口』 | 2019
9. 上坂 直 | 『所在譚』 | 2019 © 馬込将充
10. 上坂 直 | 『波結』 | 2017
11. 久保沙絵子 | 『新世界』 | 2021
12. 久保沙絵子 | 『サンキタ通り』 | 2021
13. 久保沙絵子 | 『渋谷スクランブル交差点』 | 2019
14. 久保木 要 | 『GARAGARA(シリーズ)』 | 2020 ©Yuji IMAMURA(office mura photo)
15. 久保木 要 | 『MIRROR(シリーズ)』 | 2020 ©Yuji IMAMURA(office mura photo)
16. 久保木 要 | 『CALL_L』 | 2021
17. 小林 哲朗 | 『内蔵』 | 2019
18. 小林 哲朗 | 『スチーム』 | 2019
19. 小林 哲朗 | 『群青』 | 2018
20. 小林 哲朗 | 『鵜飛』 | 2016
21. StudioSpass | 『LIFESPAN for Typojanchi 2021』 | 2021
22. 原 倫太郎 | 『ピンポンシー』 | 2019 © 木奥恵三
23. 原 倫太郎 | 『ウォーターランド～小さな大町～』 | 2021 © 下川晋平
24. 原 倫太郎 | 『妻有双六』 | 2021 © 木奥恵三
25. 原 倫太郎 | 『上昇と下降』 | 2016
26. 安田 知司 | 『0.639ppi_32』 | 2018 ©Hikari OKAWARA
27. 安田 知司 | 『0.25ppi_41』 | 2019 ©Hikari OKAWARA
28. 安田 知司 | 『1.054ppi_52(two girls)』 | 2020

A-Lab Exhibition vol.32

あまがさきアート・ストロール in A-Lab

Enjoy!

尼崎芸術祭



AMAGASAKI
ART STROLL

A

magasaki
rt

2022年

3月5日(土)

~4月10日(日)

火曜日休館(3月22日は臨時開館)

AB

尼子騷兵衛

Amako Soubee

今和泉隆行

Imaizumi Takayuki + Imaginative-Resarcher

上坂直

Uesaka Nao

伊藤瑞希

Ito Mizuki

小林哲朗

Kobayashi Tetsurou

スタジオ・スパ

Studio Spass

原倫太郎

Hara Rintaro

久保木要

Kuboki Kaname

安田知司

Yasuda Tomoshi

久保沙絵子

Kubo Saeko

十空想調査員

〔キシリ徹、佐藤香織、タナコ、寺井瞬子、
TOKS、ばつまる、ホンダノホンダナ、
Mr.Dansha、渡邊絵理、綿谷エリナ〕

主催 尼崎市



Enjoy!

2022年3月5日(土)～4月10日(日)

火曜日休館(3月22日は臨時開館)

平日 午前11時～午後7時

土日祝 午前10時～午後6時

入場料無料

尼崎で初めて開催する芸術祭「あまがさきアート・ストロール」。この芸術祭の特別会場として A-Lab では「Enjoy!」をテーマにグループ展を開催します。「Enjoy!」には、まちの日常の中で大切な「楽しみ」を感じてもらえたり、とかく難解などと言われることがある現代アートを「楽しみ」の面からふれてもらえたらとの思いを込めています。そんな中今回は、様々なジャンルで表現している 10 組のアーティストが参加しています。A-Lab のコンセプトである若手作家、尼崎ゆかりの作家、“まち”をテーマに作品を展開している作家。ぜひ、それぞれの「Enjoy!」を体験してみてください！

主催＝尼崎市

協力＝ベイ・コミュニケーションズ、Art & Nepal、有限会社木村木型

助成＝令和3年度文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



会場には一般用駐車場はありません

www.ama-a-lab.com

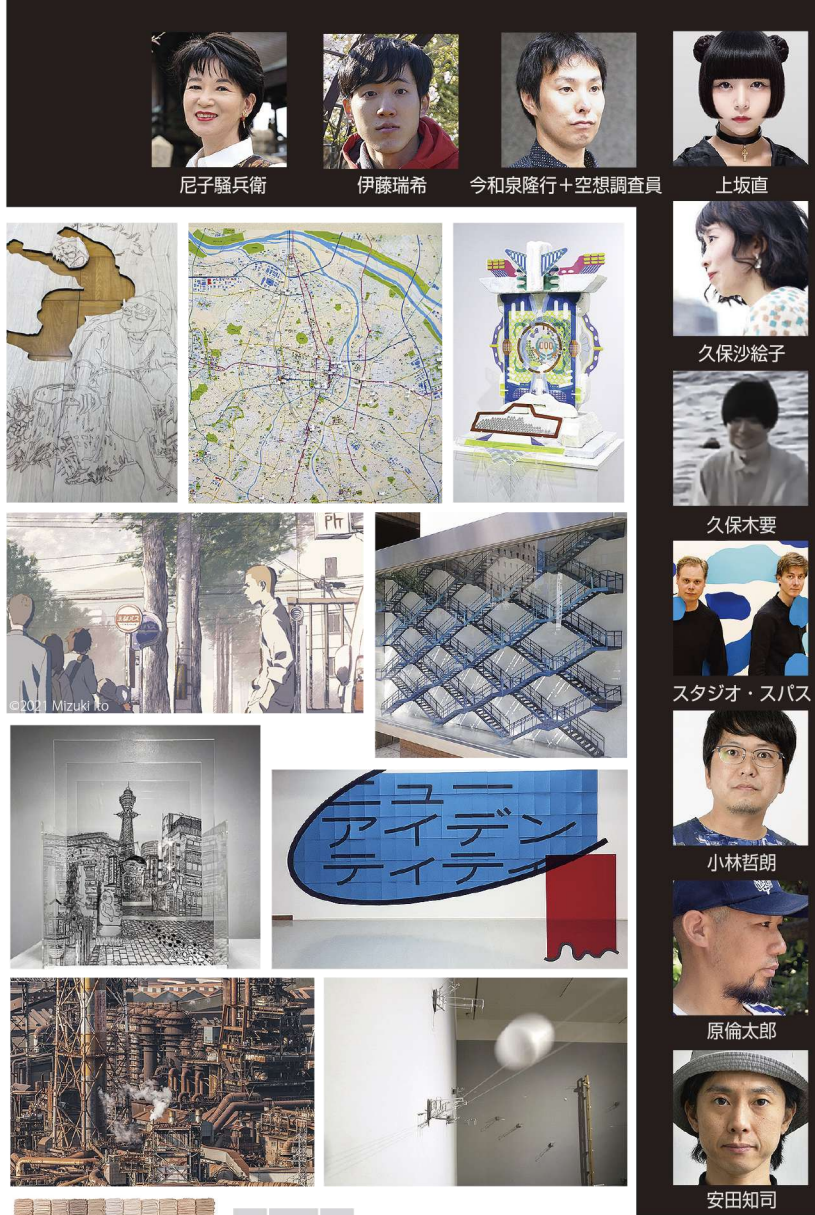
@amalove.a.lab

mail:amalove.a.lab@gmail.com

兵庫県尼崎市西長洲町 2-33-1

A-Lab ☎Fax06-7163-7108

尼崎市役所文化振興担当 ☎06-6489-6385



- ①尼子騒兵衛《体抜き小平大》2021、②今和泉隆行《中村市大判地図》2010-2020(更新中)、③久保木要《CALL_A》2021、④伊藤瑞希《高野交差点》2021、⑤上坂直《波結》2017、⑥久保沙絵子《新世界》2021、⑦スタジオ・スパス《ニューアイデンティティ》2021、⑧小林哲朗《内蔵》2019、⑨原倫太郎《上昇と下降》2016、⑩安田知司《0.25ppi_41》2019

関連イベント

トーク「まちと芸術祭の関係」

3月20日(日)午後3時～5時、原久子

さん(大阪電気通信大学教授)と吉川直

哉さん(大阪芸術大学教授のともにA-Labアドバイザーのお二人とゲストに宝塚市立文化芸術センター館長の加藤義夫さんを迎え、「まちと芸術祭の関係」をテーマにトークイベントを開催します。定員先着15人。申し込みはメールで。

A-LAB



あまがさきアート・ストロール

Produced By 六甲ミーツ・アート芸術散歩

六甲山で開催しているアートイベント「六甲ミーツ・アート芸術散歩」のコンセプトを基に、尼崎の街に展示された現代アート作品を自由に歩きながら鑑賞していただく試み。阪神尼崎駅周辺 15 か所を会場に、六甲山の「自然」の中とは対照的な尼崎という「街」の中に作品が展示されます。「街」の中をストロール(散歩)しながら楽しめる芸術祭です。

(会期)2022年3月19日(土)～27日(日)

(HP) <https://kansai-tourism-amagasaki.jp/artstroll2022/>

